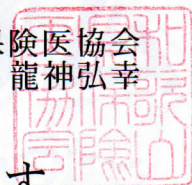


各団体 御中

2014年10月7日

和歌山県保険医協会
理事長 龍神弘幸



記念講演、イイハデー講演会のP.Rにご協力願います

拝啓

秋色、色濃くなってきました。益々ご清栄のことと拝察致します。

さて、いま日本は人口が減り、GDPが上がり、社会福祉・医療費の増大、構造的な財政赤字など困難な課題を抱え、今までに経験したことのない時代に直面しています。

しかし、人口が少ない欧州の小国が、長期的な視点に立った施策を柔軟に行うことによって、国民の理解を得て高い水準の経済、教育、医療福祉レベルを維持していることを考えますと、人口の減少は一概に悪いとは言えません。それには個々人の生き方や社会のあり方に対する大胆な意識改革が必要です。

つきましては、来る当会定期総会に、名古屋市立大学名誉教授の西野仁雄先生をお招きして、「日本人の意識改革」つまり個を確立する方法を、イチローが目標に向かい、常に自己改革し続けている姿から学び、幾つになっても、いつでも変化する能力をもち、我々の働きかけを待っている脳を日々鍛え、個を高める方法を、わかりやすくお話いただきます。

また、当会では「保険で良い歯科医療を」合い言葉に、例年10/8（イレバデー）～11/8（イイハデー）の期間に、県民に歯科治療を理解していただく企画をこの間開催しています。今年も、噛むことの大切さを一緒に考えよう、と和歌山県・和歌山市・和歌山市教育委員会・和歌山市老人クラブ連合会の後援を得て、下記のとおり開催いたします。

両方の講演会とも、参加費は無料、事前申込なしで、どなたにもご参加いただけます。

是非とも、団体の構成員、そのご家族・ご友人などにP.Rいただければと、ご案内申し上げます。

よろしくお願い申し上げます。

敬具

記

<記念講演>

テーマ／「日本は大丈夫か」

～イチローの活躍から学ぶ 個の確立～

講師／西野 仁雄 先生（名古屋市立大学名誉教授）

とき／10月25日（土） 午後4時～6時

ところ／プラザホープ 4F

（和歌山市北出島 ビッグホール北隣 TEL:073-425-3335）

参加費／無料

<「保険で良い歯科医療を」講演会>

テーマ／「噛む噛むウェルカム」

～噛むことの大切さを一緒に考えよう～

講師／北村 清一郎 先生（徳島大学 大学院 教授）

とき／11月8日（土） 午後3時～5時

ところ／和歌山商工会議所 4F

（和歌山市西汀丁 TEL:073-422-1111）

参加費／無料

※両講演会とも、事前の申込みなど必要ありません。

噛む噛むウェルカム

～噛むことの大切さを一緒に考えよう～

「最後まで自分の口でものを食べたい」、人として当たり前の願望だと思います。

しかし、現状ではすべての人に叶えられている訳ではありません。

近年、「噛む・飲み込む」働きをできるだけ長く保つことの重要性がわかってきました。

噛むことで口が刺激され、脳が覚醒されることも明らかになりつつあり、

噛むことは「ぼけ封じ」にもつながると考えられます。

様々な角度から、「噛むことの大切さ」を皆さんと一緒に考えてみたいと思います。



講師 **北村 清一郎** 先生 (徳島大学 大学院 教授)

略歴

昭和50年 大阪大学歯学部卒
大阪大学歯学部口腔解剖学第二講座助手
昭和56年 博士号受領(歯学博士)
昭和56年 大阪大学歯学部口腔解剖学第二講座講師
昭和57年 大阪大学歯学部口腔解剖学第二講座助教授
平成5年 徳島大学歯学部口腔解剖学第一講座教授
平成16年 徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部口腔顎顔面形態学分野教授

とき

11月8日(土)

午後3時～5時

ところ

**和歌山商工会議所
4Fホール**

〒640-8567 和歌山市西汀丁36
TEL073-422-1111

参加費

無料(事前申込不要)

どなたでもご参加いただけます

主な内容

- A. 噛む機能(咀嚼)に関係する器官って何があるの？
- B. 直立二足歩行でヒトが得たものとは？
ヒトと動物の顔の大きな違いは何？
- C. 食生活と顎の形・大きさにどんな関係があるの？
- D. 噛む機能(咀嚼)と飲み込む機能(嚥下)の関連性って何？
- E. 噛むことの効用って何があるの？
- F. お口の中をきれいにすること(口腔ケア)って
なぜ重要な？
- G. 最後まで自分の口で食べる為に・・・
やってみよう「健口体操」(歯科衛生士さんと一緒に)

「日本は大丈夫か」

「エイチローの活躍から学ぶ 個の確立～」

日本が、長期的な視点に立ち、高い水準の経済、教育、医療福祉レベルを維持していくためには、個々人の生き方や社会のあり方に対する大胆な意識改革が必要である。

原発事故などへの対応の無責任さを見ても明らかのように、

日本には個の文化が育っていない。他人に合わせる大勢順応型の、責任を求めない文化である。

イチローが目標に向かい、自己改革し続けている姿を見ると、個を高めることの大切さが学び取れる。

脳は非常に柔軟な臓器である。幾つになっても、いつでも変化する能力をもち、我々の働きかけを待っている。



とき

10月25日(土)

午後4時～6時

ところ

プラザホープ 4Fホール

和歌山市北出島1-5-47 和歌山ビッグホエール北隣

電話：073-425-3335

参加費

無料

(事前登録不要) どなたでもお気軽にご参加下さい

講師

西野 仁雄 先生

(名古屋市立大学名誉教授)

プロフィール

略歴 1941(昭和16)年1月 大阪府堺市生まれ

66年 和歌山県立医科大学卒業

69年 同業理学教室助手

73～75年 ニューヨーク州立大学リサーチアソシエート

76～87年 富山医科大学助教授(生理学)

88～05年 名古屋市立大学教授(生理学)

05～09年 同議長・理事長

現在 同名譽教授、NPO法人「健康な脳づくり」理事長

著書 「運動の神経科学」(NAP社)

「Mitochondrial Inhibitors and Neurodegenerative Disorders」(Humana Press)

「イチローの脳を科学する」(幻冬舎)

「イチローは脳をどう鍛えたか」(経済界)

「死ぬ迄ボケない10の習慣」(PHP文庫)

「認知症にならないために」(ゆいぽおと) など